

# 読む**中学**進学



人生を切り開く力を付ける教育



森上教育研究所 学校アドバイザー  
小泉壮一郎

2015/05



大学受験を行う前に、大学で何を学びたいかを生徒に考えさせる必要があります。目的のない受験勉強では、やる気が起きないのも無理はありません。また、大学で学んだことを活かして、社会で何をしたいかを生徒に考えさせることも重要です。これらが「キャリア教育」で、これまでは、女子校が中心となって「キャリア教育」に熱心に取り組んで来たようですが、最近は共学校でも多様な取り組みをしている学校が増えてきました。

桐光学園では、キャリア教育の一環として、有名大学の著名な教授を招いて大学の講義を生徒に体験させることで、「大学に入学して大学で何をしたいのか」を考えさせる講演会を多数行い、生徒のやる気を引き出してきたようです。桐光学園のように質・量ともに充実しているわけではないと思いますが、「大学教授が中学生や高校生に大学の講義を行うこと」は、それほど珍しいことではありません。文科省が推進している、高校と大学が連携して生徒の教育を行う、「高大連携」と言えるでしょう。桐光学園での講演内容の質の高さは、筑摩書房が「ちくまプリマー新書」として出版したことも分かります。概要は、「第一巻 何のために『学ぶ』のか」「第二巻 考える方法」「第三巻 科学は未来をひらく」「第四巻 揺らぐ世界」「第五巻 生き抜く力を身につける」の単行本で五冊が出版されています。第一巻から第四巻まではすでに全国の書店で販売されているようですが、第五巻は2015年5月に発刊するということですので興味のある方はご覧下さい。

五冊の内、私が最も興味のあるのは、「第五巻 生き抜く力を身につける」です。現在の日本では、自分で人生を切り開き、生き抜く力が必要です。何も考えずにレールに乗っているだけで安心・安全な人生を送れる時代ではないのです。そのような時代を反映してか、中高一貫6年間で、大学受験だけではなく、自分で人生を切り開き、生き抜く力を身につけることを期待する在籍者の保護者が増えています。

森上教育研究所では、入学したばかりの中学1年生の保護者を対象に、受験生だった時の思い出してもらい、在校生・保護者アンケートに協力してもらっています。受験生の保護者のニーズを調査するために「わが子に対し、本校に期待していることは？（1つ選択してください）」の設問を設定しています。

<資料1>は、複数の学校で行ったアンケートの結果をまとめたものです。従来、私立中高一貫校に、受験生・保護者が求めてきた「人間性」は、「学力（大学合格実績）」に代わり、近年は、「学力」も減少傾向となりつつあることが<資料1>からも分かります。純粋に学力を伸ばしてもらいたいという「2. 学力を向上させてもらいたい」の選択肢は、H25では10%でしたが、H27には2%と大幅に減少しています。H25～H27で、常に最も多かったのは「3. 人間性と学力をバランスよく向上させてもらいたい」ですが、H27で13ポイントも減少しています。その代わりにH27で急増したのが「5. 社会人基礎



力と学力をバランスよく向上させてもらいたい」でした。社会人基礎力は、人生を切り開く力（行動力・思考力・協調性）で、純粋に社会人基礎力だけを期待する「4. 人生を切り開く社会人基礎力（行動力・思考力・協調性）を付けてもらいたい」という保護者も26%と純粋に学力や人間性よりも多く、一定割合を占めています。

<資料1>

	%	1	2	3	4	5	6	小計
H27		1%	2%	39%	26%	32%	0%	100%
H26		0%	5%	52%	29%	14%	0%	100%
H25		4%	10%	48%	22%	16%	0%	100%
7-6		1%	-3%	-13%	-3%	18%	0%	0%
6-5		-4%	-4%	4%	7%	-3%	0%	0%

1.人間性を向上させてもらいたい	4.人生を切り開く社会人基礎力(行動力・思考力・協調性)を付けてもらいたい
2.学力を向上させてもらいたい	5.社会人基礎力と学力をバランスよく向上させてもらいたい
3.人間性と学力をバランスよく向上させてもらいたい	6.その他( )

桐光学園は、受験生・保護者のニーズである「人生を切り開く力を身につけさせたい」をしっかりとらえ、しかも、生徒の教育の柱として重視していると思います。重視したからこそ、在校生に多くの講演をし、「第五巻 生き抜く力を身につける」を出版することになったのだと思います。もちろん、「第一巻 何のために『学ぶ』のか」「第二巻 考える方法」「第三巻 科学は未来をひらく」「第四巻 揺らぐ世界」は、「第五巻 生き抜く力を身につける」ために必要な要素となっています。例えば、「第一巻 何のために『学ぶ』のか」は、「生き抜く力」を使う目的に当たり、目的が無いところに「生き抜く力」の必要はありません。また、「第二巻 考える方法」は「生き抜く力」の中核となる思考力の部分で、日本人が苦手な分野です。「第三巻 科学は未来をひらく」「第四巻 揺らぐ世界」では、「生き抜く力」がいかに大事か、事例として分かると思います。

社会人基礎力を身につけさせるためには、学校生活の中で社会人基礎力を体験し、習得し、実際に困難なことに社会人基礎力を使って立ち向かう必要があります。北鎌倉女子学園では、中高生にとって大学受験が最も困難なことで、生徒が決めた第一志望校に合格することを目標として、学力と人間力を同時に習得することを目指しています。北鎌倉女子学園では人間力を人間性と社会人基礎力を加えたものとしています。社会人基礎力は行動力・思考力・協調性など能力ですが、能力を発揮するためには人間性（心）が必要と考えています。行動力には情熱・向上心、思考力には好奇心・探究心、協調性には協力したいと思う気持ち・貢献したいという気持ち対応しているということです。

大学受験は、勉強を伴うため、楽しいものではないが、多くの高校生が取り組まなければならない重要なことと分かってはいても、なかなかスタート台に立てない生徒が多いよ



うです。自主的に取り組めないのが、成果も出にくいというのが一般的です。そこで、北鎌倉女子学園では、学習させることよりも、大学受験で行うべき事項を円滑に行えるように、＜資料3＞のような生徒の現状をアンケートで分析し、生徒に示すことで生徒がどこで何が原因となって立ち止まっているかを明らかにし、生徒が自分で解決できるように先生がアドバイスすることを考えています。

大学受験に必要な事項をA. 目標大学の決定 B. 受験勉強へのやる気の獲得 C. 自分の「強み」の発見 D. 受験勉強の実施 E. 自分に合った受験勉強方法の習得 のような小さな目標に細分化し、それぞれを達成すべきミッションと呼んでいます。最終目標は志望大学の合格ですが、あまりにも遠くにある目標のために実感が沸かないため、最初の目標としてA. 目標大学の決定を設定し、最初の目標を達成できれば、それが成功体験となり、次の目標を達成できるように頑張れるのです。

細分化されたA～Eが、自分でも頑張ればできそうな課題として取り組み、達成できたことが成功体験として自信となるため、やる気生まれる好循環となるシステムです。ミッションA～Eの1つ1つに、社会人基礎力が必要となります。

＜資料2＞は、＜資料3＞の一部のミッションの達成・未達成状況です。達成できているミッションには①を、達成できないミッションであれば②～⑨のどこかで立ち止まっているはずです。⑨のように生徒がどこで立ち止まっているかが分からない場合を除けば②～⑧のどこかをアンケートでは回答することになります。北鎌倉女子学園②～⑧の最後についている「主体性・実行力」は社会人基礎力の行動力の内訳で、「課題発見力・問題解決力」は社会人基礎力の思考力の内訳で、「コミュニケーション力・柔軟性」は社会人基礎力の協調性の内訳と定義しています。

#### ＜資料2＞

- ① ミッションは達成済み、または達成に近づいている状況
- ② 主体性が不足し、行動できていない状況＝主体性
- ③ 実行力が不足し、行動できていない状況＝実行力
- ④ 達成に必要な課題が発見できていない状況＝課題発見力
- ⑤ 課題の解決方法が理解できていない状況＝問題解決力
- ⑥ 解決方法は理解できたが、行動できていない状況＝行動力（主体性＋実行力）
- ⑦ 達成に近づけないことを相談できていない状況＝コミュニケーション力（発信力と傾聴力）
- ⑧ 相談相手の意見を受け入れられない柔軟性がない状況＝柔軟性
- ⑨ ②～⑧で問題があるが気がついていない状況＜停滞状態＞



### <資料3>

高校 年 組 番 氏名

2014年9月

#### ☆☆☆ 進路指導アンケート ☆☆☆

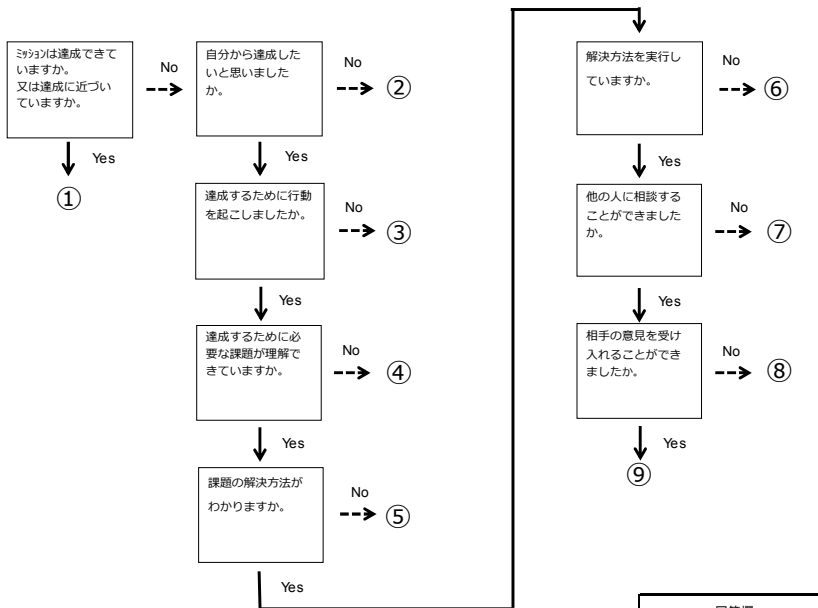
大学受験を通して、社会に出て必要とされる「生きる力(社会人基礎力)」を高めることができます。ミッションA～Eの回答が自分の目標レベルに対応した時期までに、すべて①になると、必ず学力は向上し、ゴールである志望大学合格は近いはず。今の自分がどういう状態にいるか、アンケートに答えて再確認してみましょう。回答は、それぞれの課題について下のYes-No矢印に沿って、自分のたどり着いた番号を記入してください。回答は回答欄に記入して下さい。

#### ゴール 志望校に合格する力をつけること

- ミッションA 目標大学の決定
- ミッションB 受験勉強へのやる気の獲得
- ミッションC 自分の「強み」の発見
- ミッションD 受験勉強の実施
- ミッションE 自分に合った受験勉強方法の習得

#### ミッション達成リミット

- 難関国立大 高校1年 9月
- 早慶レベル、国立大 高校2年 4月
- GMARCHレベル、公立大 高校2年12月
- 日東駒専レベル 高校3年 4月



- ① ミッションは達成済み、または達成に近づいている状況
- ② 主体性が不十分、行動できていない状況＝**主体性**
- ③ 実行力が不十分、行動できていない状況＝**実行力**
- ④ 達成に必要な課題が見えてきていない状況＝**課題発見力**
- ⑤ 課題の解決方法が理解できていない状況＝**問題解決力**
- ⑥ 解決方法は理解できたが、行動できていない状況＝**行動力(主体性+実行力)**
- ⑦ 達成に近づけないことを相談できていない状況＝**コミュニケーション力**(発信力と傾聴力)
- ⑧ 相談相手の意見を受け入れられない柔軟性がない状況＝**柔軟性**
- ⑨ ②～⑧で問題があるが気がついていない状況<停滞状態>

回答欄	
ミッションA	
ミッションB	
ミッションC	
ミッションD	
ミッションE	

<資料4>は<資料3>のアンケート結果の一部です。<資料4>を見ると、ミッションAは、「目標大学の決定」で、ミッションBは、「受験勉強へのやる気の獲得」です。「目標大学の決定」は、高3の94%は達成していますが、残りの6%が、まだ達成できておらず、最も多い2%は「課題発見力」が無いいため立ち止まっています。高2では、56%の生徒が達成していますが、残りの44%が、まだ達成できておらず、最も多い13%は「実行力」が無いため立ち止まっています。

「受験勉強へのやる気の獲得」は、高3の56%は達成できていますが、残りの44%ができておらず、最も多い15%は「実行力」が無いため立ち止まっています。高2では、

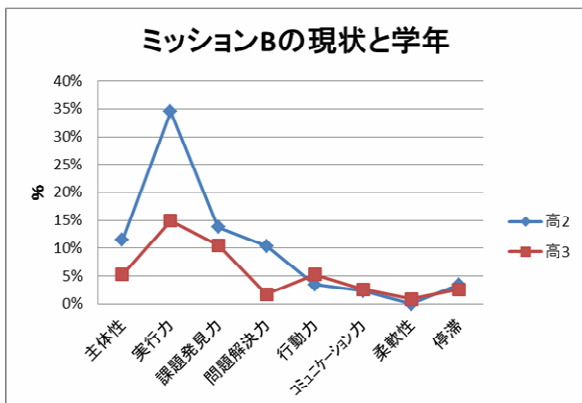
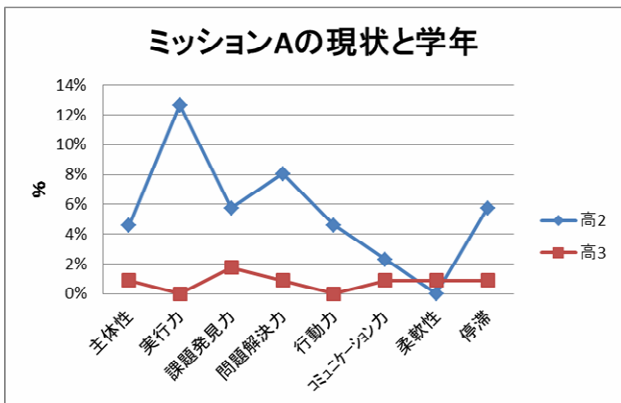


21%の生徒が達成していますが、残りの79%ができておらず、最も多い34%は高3と同じ、「実行力」が無いため立ち止まっています。やろうという気持ち（主体性）はあっても、実行力がないということは生徒本人が分かっているようです。

原因が分かれば対処もしやすいと思います。生徒にはこの表を示し、何が問題かを自分で気づいてもらうようにしますが、自分ではどうにもならない場合は先生に相談するように勧めるそうです。年に3回アンケートを取って調査するそうですが、同じ状態が続けば個人面談で解消するシステムになっているそうです。

また、進路指導部としては、個人への支援だけではなく、クラス・学年で行う進路指導行事を進路アンケートのデータから目標となる数値になるように改善するシステムになっているそうです。

<資料4>



		2	3	4	5	6	7	8	9	1
		主体性	実行力	課題発見力	問題解決力	行動力	コミュニケーション力	柔軟性	停滞	達成
A	高2	5%	13%	6%	8%	5%	2%	0%	6%	56%
A	高3	1%	0%	2%	1%	0%	1%	1%	1%	94%
B	高2	11%	34%	14%	10%	3%	2%	0%	3%	21%
B	高3	5%	15%	11%	2%	5%	3%	1%	3%	56%

人生を切り開くための「問題解決」や「目標達成」が出来るようになるためには、社会人基礎力を付けることが必要です。行動力のもとになる「やる気」が重要なのか、それとも「実施方法」を考える思考力が重要なのか？「問題解決」や「目標達成」を行うためには「やる気」「実施方法」のどちらから始まるのか？「やる気」がなければ実行に移すことは出来ないのではないのか？特に、興味のないことや苦しいことは、「実施方法」が分からな



ければ、やる気にはならないのではないかと考えてみると、誰でも興味のあることは、「やる気」が出るのは当たり前で、「問題解決」や「目標達成」を伴うことは、興味のないことや苦しいことが多いのです。

多くの大人でもそうですが、中学生・高校生にとっては、受験勉強は興味のあることではないため、自然に「やる気」が出ることはありません。中学生・高校生にとって、大学受験は困難のことで、「問題解決」や「目標達成」を体験する良い機会と考えられます。第一志望大学に合格した生徒は、大学受験を通して「問題解決」や「目標達成」の成功体験を積んだことになると思います。その成功体験は、大学入学後、社会に出てからも人生を切り開く自信となることでしょう。

人生を切り開く力を付ける教育を重視し、生徒の将来を熟慮して取り組んでいる学校はそれほど多くは無いと思います。桐光学園や北鎌倉女子学園のように、中高の6年間という長いスパンでなければできない「人生を切り開く力を付ける教育」で、生徒を教育してくれる学校がもっと増えていけば良いと思います。

以上